

日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

 発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
 〒602-8048 京都市上京区下立売通
 小川東入ル
 中西印刷株式会社（日本産業衛生学
 会近畿地方会事務局支局）
 発行責任者 林 朝茂（地方会長）
<http://jsoh-kinki.jp>
第63回近畿産業衛生学会

主 催	日本産業衛生学会 近畿地方会
共 催	兵庫県医師会、兵庫産業保健総合支援センター
後 援	兵庫県歯科医師会
学 会 長	島 正之（兵庫医科大学医学部公衆衛生学）
日 時	2023年11月11日（土）9時25分開始
会 場	兵庫医科大学医学部教育研究棟（西宮キャンパス） （阪神電鉄「武庫川駅」下車、西出口より徒歩5分）
テ ー マ	ポストコロナ時代の産業保健
一 般 演 題	9：30～10：50 3階301講義室、302講義室
教 育 講 演	11：00～12：00 2階201大講義室 「職場のパワーハラスメントを取り巻く現状と産業保健分野における防止対策の進め方」 座 長：中尾 和久（甲南女子大学人間科学部心理学科 教授） 演 者：津野 香奈美（神奈川県立保健福祉大学 准教授）
幹 事 会	12：10～13：00 3階301講義室
ランチョンセミナー	今回は予定しておりません。
代 議 員 会	13：10～13：40 2階201大講義室
表 彰 式	13：40～13：55 2階201大講義室
基 調 講 演	14：00～15：00 2階201大講義室 「産業保健現場のコロナと「次」の課題～メンタルヘルスを含めて」 座 長：島 正之（兵庫医科大学医学部公衆衛生学 教授） 演 者：勝田 吉彰（関西福祉大学社会福祉学部 教授）
シンポジウム	15：10～17：10 2階201大講義室 「ポストコロナ時代の働き方改革とメンタルヘルス」 座 長：丸山 総一郎（神戸親和女子大学 名誉教授） 藤吉 奈央子（株式会社トラストチャーム） 「COVID-19パンデミックが働く人々にもたらした影響～職場ストレスチェック集団分析」 演 者：田中 茂美（たなか内科クリニック、産業医） 「強迫症診療からみる COVID-19 感染症と産業保健」 演 者：向井 馨一郎（兵庫医科大学精神科神経科学 助教） 「ポストコロナの職場づくり～産業看護職の役割～」 演 者：本田 美樹（AGC株式会社関西工場 健康管理センター 看護師） 「コロナ禍の自殺のポストベンション活動を通して見えたこと」 演 者：佐倉 健史（さんぎょうい株式会社、臨床心理士・公認心理師） 「口腔とストレスの関連～コロナを経て見えてきた課題～」 演 者：安田 恵理子（大阪歯科大学非常勤講師、日本産業衛生学会産業歯科保健部会）
産業衛生技術部会総会	17：20～17：50 3階301講義室
懇 親 会	感染動向が不確実なため実施しません
ホームページ	https://jsoh-kinki.jp/jsohkinki-63/





学会長 島 正之
(兵庫医科大学医学部公衆衛生学)

学会開催のご挨拶

第63回近畿産業衛生学会を担当させていただくにあたり、ご挨拶申し上げます。

本学会は、日本産業衛生学会の地方組織である近畿地方会の年次学術大会として1963年(昭和38年)から年1回(昭和47年と49年は2回)行われてきました。今回は第63回となり、本年11月11日(土)に兵庫医科大学西宮キャンパスで開催することになりました。昨年に引き続き、現地に対面式の開催を予定しています。

本学会では『ポストコロナ時代の産業保健』をメインテーマとし、基調講演とシンポジウムを計画しました。2019年に中国で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2020年に入って世界中で感染が拡大し、1月30日に世界保健機関(WHO)は「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」を宣言しました。日本でも4月7日に7都府県に「緊急事態宣言」が発出され(その後全国に拡大)、不要不急の外出自粛や休業が要請され、企業においても在宅勤務が奨励されるなど、私たちの生活は大きく変化しました。その後、ウイルスは変異を繰り返しながら感染が継続し、本年5月に感染症

法による分類が5類となるまでの3年余り、数次にわたる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などにより、在宅勤務の広がりや医療の逼迫による医療従事者への精神的負担など、産業保健を取り巻く状況も大きく変化しました。この間に産業衛生学会員の皆さまもそれぞれの職場等で感染対策に取り組んで来られたことと思います。

本学会開催時は感染症分類が5類となって半年が経過したところですが、この3年間を振り返り、現状の問題点と今後の課題解決に向けての議論を深めたいと考えています。また、教育講演では職場におけるパワーハラスメントについて取り上げるほか、産業保健が今日抱えているさまざまな課題について幅広く意見交換できる機会にしたいと思います。

本年は4年ぶりに懇親会の開催を計画しておりましたが、現在も新型コロナウイルス感染症の動向が不確実であることから、やむを得ず開催を見合わせることにしました。その分は、学会の各セッションで熱い討議をしていただきたいと思います。多くの皆さまにご参加いただき、活発な学会となりますようお願い申し上げます。

第63回近畿産業衛生学会プログラム

一般演題プログラム(口演)

3階301講義室(101~108) 9:30~10:50

- 座長：篠原 正和(神戸大学大学院医学研究科分子疫学)
鮫島 真理子(兵庫産業保健総合支援センター)
- (101) 特別支援学校教員の腰痛における心理社会的要因と客観的な身体機能との関係について
○石川 大輔¹、島 正之²(¹運動器ケアしまだ病院、²兵庫医科大学公衆衛生学講座)
- (102) 新人看護師を対象とした2年目の燃え尽き症候群(バーンアウト)の予測因子調査～初年度の職場ストレスと心理特性との関係～
○向井 馨一郎¹、朴 美喜²、比留間 ゆき乃³、武内 治郎⁴、島 正之⁵(¹兵庫医科大学精神科神経科学講座、²兵庫医科大学病院人事部保健管理室、³兵庫医科大学病院看護部、⁴兵庫医科大学臨床疫学、⁵兵庫医科大学公衆衛生学講座)
- (103) 当社における孤独死例と45歳以上単身者アンケートの報告
○五熊 文義¹、田中 茂美²、島 正之²(¹株)デンソー

- テン 健康推進室、²兵庫医科大学医学部公衆衛生学)
- (104) 死亡災害オープンデータのデータクレンジングと活用への試みについて
○西田 典充(ニデック株式会社)
- (105) 滋賀県における治療と仕事の両立支援に関する事業所調査—がん患者に対する両立支援の状況—
○北原 照代¹、須賀 弘篤²、辻村 裕次¹、埴田 和史³、田村 奈那子⁴(¹滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門、²滋賀医科大学医学部医学科登録研究医コース、³びわこリハビリテーション専門職大学、⁴滋賀県健康医療福祉部健康寿命推進課)
- (106) 滋賀県における治療と仕事の両立支援に関する事業所調査—事業所規模および業種別にみた治療中の労働者の在職状況—
○須賀 弘篤¹、北原 照代²、辻村 裕次²、埴田 和史³、田村 奈那子⁴(¹滋賀医科大学医学部医学科(登録研究医コース)、²滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門、³びわこリハビリテーション専門職大学、⁴滋賀県健康医療福祉部健康寿命推進課)
- (107) 当会における「産業保健外来」の実績と課題

○岡本 昭夫、市田 裕紀子、中嶋 知恵、益田 さやか、
中岡 光恵、林 有美子、森口 次郎（一般財団法人京
都工場保健会）

(108) 自事業場内のストレスチェック集団分析結果の活用
に関わる実践報告—心理職の立場から—

○藤井 彩、水本 正志、内田 陽之、倉谷 昂志、岩佐
浩、山根 英之、森 将人、中嶋 知恵、大友 和則、
森口 次郎（一般財団法人京都工場保健会）

3階 302 講義室 (201～208) 9:30～10:50

座長：上村 浩一（兵庫県立大学看護学部保健医療福祉系）
米永 哲朗（医療法人米永会 米永歯科医院）

(201) 低体重女性の健診データ特徴調査

○森 裕子、山本 裕美、嵯峨 裕子、西村 明芳、木村
隆（一般財団法人KCC 近畿健康管理センター）

(202) 女性の月経を考慮した大腸がん検診のあり方（第2
報）：郵送検診導入の効果検証

○森野 亜弓、志摩 梓、川村 敦子、河津 雄一郎
（(株) 平和堂 健康サポートセンター）

(203) 職域健診時に評価した不眠とその後1年間のメン
タル不全による欠勤の関連

○川村 敦子、志摩 梓、森野 亜弓、河津 雄一郎
（(株) 平和堂 健康サポートセンター）

(204) 産業分野におけるいびき・無呼吸と睡眠の質

○角谷 寛¹²、松田 有史¹、大道 智恵¹³、Uyanga
Tsovoosed¹、角 幸頼¹、乳原 彩香¹⁴、西川 公平¹⁵、
尾関 祐二¹（¹滋賀医科大学精神医学講座、²産業歯科
保健部会、³大阪医科薬科大学衛生学・公衆衛生学、
⁴PRAヘルスサイエンス株式会社、⁵CBTセンター）

(205) タバコの種類別にみた禁煙関心度・ニコチン依存度
テスト（TDS）の変化

○老谷 るり子¹、上田 恵²、平澤 芳恵²、佐藤
さとみ²、村田 幸平¹（¹関西労災病院治療就労両立支
援センター、²東京労災病院治療就労両立支援センター）

(206) 喫煙者・禁煙達成者のストレスチェック結果から考
える～会社目標喫煙率達成に向けて

○橘 淑子（NTT西日本健康管理センター（関西エリア））

(207) 安衛法13条による労働者の健康確保の工夫：複数事
業所での実践と結果

○野田 龍也（奈良県立医科大学公衆衛生学講座）

(208) わが工場の歯科保健の取り組み—2018年度から5年
間の結果報告—

○矢野 真由美¹、川村 匡宏²、片山 沙紀¹、本山
佳代子¹（¹三井化学株式会社大阪工場、²医療法人杏和
会 阪南病院）

教育講演 2階 201 大講義室 11:00～12:00

「職場のパワーハラスメントを取り巻く現状と産業保健分
野における防止対策の進め方」

座長：中尾 和久（甲南女子大学人間科学部心理学科 教授）

演者：津野 香奈美（神奈川県立保健福祉大学 准教授）
日本医師会認定産業医 生涯研修（専門研修）：1単位
産業保健看護専門家制度研修単位：1単位

幹事会 3階 301 講義室 12:10～13:00

代議員会 2階 201 大講義室 13:10～13:40

表彰式 2階 201 大講義室 13:40～13:55

第63回近畿産業衛生学会 優秀演題賞

第63回近畿産業衛生学会 若手奨励賞

基調講演 2階 201 大講義室 14:00～15:00

「産業保健現場のコロナと「次」の課題～メンタルヘルスを含めて」

座長：島 正之（兵庫医科大学医学部公衆衛生学 教授）

演者：勝田 吉彰（関西福祉大学社会福祉学部 教授）

日本医師会認定産業医 生涯研修（専門研修）：1単位

産業保健看護専門家制度研修単位：1単位

シンポジウム 2階 201 大講義室 15:10～17:10

「ポストコロナ時代の働き方改革とメンタルヘルス」

座長：丸山 総一郎（神戸親和女子大学 名誉教授）

藤吉 奈央子（株式会社トラストチャーム）

講演

1. 「COVID-19パンデミックが働く人々にもたらした影響
～職場ストレスチェック集団分析」

演者：田中 茂美（たなか内科クリニック、産業医）

2. 「強迫症診療からみる COVID-19 感染症と産業保健」

演者：向井 馨一郎（兵庫医科大学精神科神経科学 助教）

3. 「ポストコロナの職場づくり～産業看護職の役割～」

演者：本田 美樹（AGC株式会社関西工場 健康管理セ
ンター 看護師）

4. 「コロナ禍の自殺のポストベンション活動を通して見え
たこと」

演者：佐倉 健史（さんぎょうい株式会社、臨床心理士・
公認心理師）

5. 「口腔とストレスの関連～コロナを経て見えてきた課題～」

演者：安田 恵理子（大阪歯科大学非常勤講師、日本産
業衛生学会産業歯科保健部会）

日本医師会認定産業医 生涯研修（専門研修）：2単位

産業保健看護専門家制度研修単位：2単位

産業衛生技術部会総会

3階 301 講義室 17:20～17:50

第 63 回近畿産業衛生学会 開催要項**1. 各種申込**

- (1) 事前参加申込：参加者数把握のため、学会ホームページからの事前申込にご協力ください。
- (2) 日本医師会認定産業医単位申請（定員 250 名）：学会ホームページの専用フォームから事前申込の上、学会参加費とあわせて認定単位料（3,000 円）を事前にお振り込みください（当日の申込みは受け付けません）。定員に達しましたら、申込みを締め切ります。

10 月 31 日（火） 事前参加申込み締め切り

10 月 27 日（金） 発表者用パワーポイントファイルの提出期限

2. 会場およびアクセス

兵庫医科大学医学部教育研究棟（西宮キャンパス）
〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町 1-1
阪神電鉄「武庫川駅」下車、西出口より徒歩 5 分
<https://www.hyo-med.ac.jp/about/access/guide/nishinomiya/>

3. 受付

11 月 11 日（土） 8：45～16：00 教育研究棟 2 階エントランス

4. 参加費

学会員 1,000 円、大学院生・学生 1,000 円（学生証をご提示ください）、その他 2,000 円

日本医師会認定産業医単位申請 4 単位 3,000 円（事前振込のみ）

5. 一般演題の座長、演者へのご案内

一般演題の構成は、発表 7 分＋質疑応答 3 分（移動時間込み）です。

発表方法は Windows 版 PowerPoint のみとします。詳細はホームページの演題発表抄録原稿の作成要項をご参照ください。発表用パワーポイントは、10 月 27 日（金）までに第 63 回近畿産業衛生学会事務局へファイルをメール添付でお送り下さい。原則として、学会当日の受付・差し替えはいたしません。メールの件名は「発表データ（名前）」としてください。

11 月 2 日（木）14 時までに受領確認の返信メールをお送りします。14 時を過ぎても返信メールがない場合は、恐れ入りますが事務局に電話で確認してください。

6. ランチョンセミナー

今回は予定しておりません。

7. 懇親会

今回は予定しておりません。

8. 昼食について

抄録集に大学構内の昼食場所の地図（グルメマップ）をご用意しております。

9. 駐車場について

公共交通機関の利用をお願いしておりますが、やむを得ず自動車でお越しの方は、キャンパス内の立体駐車場をご利用ください（有料）。

10. 問合せ先

運営事務局
第 63 回近畿産業衛生学会運営事務局
兵庫医科大学医学部公衆衛生学講座
〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町 1-1
担当：木佐貫 弥生
TEL：0798-45-6566
メール：kinki63@hyo-med.ac.jp

11. 実行委員

学会長：島 正之（兵庫医科大学医学部公衆衛生学）
顧問：鈴木 克司（兵庫県医師会副会長）
委員長：大谷 成人（兵庫医科大学医学部公衆衛生学）

実行委員：（五十音順）

五熊 丈義（デンソーテン（株）健康推進室）
老谷 るり子（関西ろうさい病院 治療就労両立支援センター）

鮫島 真理子（兵庫産業保健総合支援センター）

篠原 正和（神戸大学大学院医学研究科）

田中 茂美（たなか内科クリニック）

中尾 和久（甲南女子大学教授）

長見 まき子（関西福祉科学大学健康福祉学部健康科学科）

朴 美喜（兵庫医科大学保健管理センター）

藤吉 奈央子（株式会社トラストチャーム）

丸山 総一郎（神戸親和女子大学 名誉教授）

吉益 光一（神戸女学院大学人間科学部心理・行動科学科）

余田 佳子（兵庫医科大学医学部公衆衛生学）

米永 哲朗（医療法人米永会 米永歯科医院）

産業衛生技術部会からのお知らせ

2023 年 11 月 11 日（土）地方会学会において 17：20～17：50 に総会を開催します（於：兵庫医科大学西宮キャンパス 教育研究棟 3 階 301 講義室）。地方会学会のプログラムが終了してからの開催になります。皆様とお目にかかるのを楽しみにしています。

なお、総会では審議事項として（1）2024 年度研修会（テーマ、日時の決定）、報告事項として（1）活動報告、（2）会計報告、等の内容を予定しています。

引き続き、部会の活動にご支援賜りますようお願いいたします。

近畿産業衛生技術部会長 長見 まき子

第96回日本産業衛生学会の報告

「第96回日本産業衛生学会に参加して」



(株) ドクタートラスト

南 未来

私は転居に伴う離職の後、2020年より産業保健に再従事しました。そんな中、高知開催の第95回大会に現地参加させてもらいました。そこで大きな刺激を受け、「来年は発表したい」と感じ、1年後の今回、無事演題発表しました。

発表内容は中小企業のストレスチェックに関するものです。弊社にてストレスチェックの集団分析や職場環境改善の支援をしていますが、中小企業は、大企業とは高ストレス者率やストレス要因（組織の問題）が大きく異なるのでは。という疑問を感じ、中小企業の支援に役立てたいと考えたことがきっかけです。発表は「オンデマンド形式」ということで、従来のポスター発表とは違い、動画の収録等初めての経験も多かったのですが、充実した時間を過ごせました。

今回の学会の印象としては、学会アプリが登場したことがとても印象的でした。おかげで学会の聴講スケジュールを立てるのがとても楽になりました。オンデマンドがないことが予想される演題を優先的に見るようにする等工夫もしました。

今回の学会で、最も印象に残った言葉は、「援助希求行動」です。これは、両立支援のシンポジウムの中で取り上げられており、普段の業務においても、どう支援が必要な方を拾い上げていくかを考えている中でしたので、心に刺さりました。本人の援助希求行動を後押しするようなメッセージを普段から発信しておくことが重要。また、仕組みづくりが重要で、ナッジの取り組みともつながるという風にも感じました。本人へのアプローチだけでなく、管理職を教育することや、職場の風土を育てていくことが大変重要と学びました。

その他、前職での先輩と感動の再会をしたり、遠方の友人と一献交わしたりと刺激と実りの多い時間となりました。今後も発表ができるように、普段から自分の業務の精度を高めていきたいと想いを深めました。まずは、来年の広島グルメを調べて自分を動機づけたいと思います。

第96回日本産業衛生学会の報告

「第96回日本産業衛生学会に参加して」

大阪青山大・健康科学

相羽 洋子

第96回日本産業衛生学会が2023年5月10日（水）～12日（金）の3日間、千葉大学大学院医学研究院環境労働衛生学教授の諏訪園靖企画運営委員長のもとに宇都宮市内で開催されました。会場は2022年秋に建設された新しい施設で、利便性が高く快適に過ごすことができました。

今回、参加して印象に残った2点をご紹介します。

1点目は、産業衛生学会でテーマとなるのは初めてであろう薬剤師に着目した「産業薬剤師を考える会」が自由集会で開催されたことです。九州地方会長の堀内正久先生から「地方の産業保健の質向上を目指して」として鹿児島市内における産業保健の課題と解決に関する産業薬剤師の活発な参画をご紹介いただきました。

学会の中で薬剤師の資格を有する会員数は少なく、昨年と一昨年に実施された会員調査の職種で薬剤師は「その他」で集計されています。学会内で薬剤師間の交流する場はなく、薬剤師は産業衛生活動に寄与できないのでは、と考えていました。しかし、この自由集会に参加して、働く世代の健康を支援するための産業薬剤師の活動を初めて知ることができ、非常に有意義な集会でした。

2点目は、技術部会の「これからの騒音障害予防対策について」で、30年ぶりに改正される騒音障害防止のためのガイドラインに関するフォーラムです。本ガイドラインは、騒音障害防止対策の管理者の選任、騒音レベルの新しい測定方法（個人ばく露測定と推計）、聴覚保護具の選定基準の明示、騒音健康診断の検査項目の見直し等、騒音障害防止のために大きく進展した内容となっています。

個人ばく露測定は、産業衛生分野では化学物質の自律的な管理のみならず、振動障害防止のための工具の振動レベルと作業時間との関係等でも取り入れられており、労働者の健康障害防止の観点から必要不可欠なものと言えます。今回の改正によって、個人ばく露等の考えが活用され騒音障害防止に結びつくことが期待されます。

第71回近畿地方会学術講演会報告

「第71回近畿地方会学術講演会特別講演1を拝聴して」

日本製鉄（株）関西製鉄所
（一財）NSメディカル・
ヘルスケアサービス



河邊 明男

産業医科大学の大和浩教授による「法律とガイドラインに添って進める職場におけるニコチン依存症対策」という講演を拝聴しました。令和元年の成人喫煙率は16.7%（国民健康・栄養調査）であり、ゆるやかに減少というより停滞と表現する方が正しいかもしれません。その原因として大和先生が「岩盤層」と表現された、絶対に禁煙しないと主張する人たちの存在があります。今回、先生の豊富な経験とエビデンスに基づいた「岩盤層」へのアプローチをご教示いただきました。喫煙は動脈硬化、糖尿病、がん等を引き起こす全身疾患「喫煙病」であり、ニコチン依存を断つために積極的な介入が重要と、まずは医療者自身の再認識が必要です。先生のような具体的な禁煙成功体験を基に、心の変化を促す機会を意識し、身体的依存と心理的依存による禁断症状を克服するため、ニコチン補充療法を喫煙者に積極的に提案する必要性を実感しました。また、受動喫煙や生産性低下の観点から、敷地内禁煙や勤務中や休憩時間の喫煙制限など禁煙せざるを得ない環境を構築していく必要もあります。講演を通じて学んだ知見を基に、産業保健スタッフでアイデアを出し、さらなる喫煙率低下を目指していきます。



産業医科大学産業生態科学研究所健康開発科学 大和 浩 教授
（ニコチンガムの使い方を実演している様子）

第71回近畿地方会学術講演会報告

「第71回近畿地方会学術講演会特別講演2の御報告」

大阪歯科大学歯学部
口腔衛生学講座



安田 恵理子

今回のテーマ「職場における喫煙対策—新型タバコも含めて—」ということで、「喫煙／歯科口腔疾患／生活習慣病—職場からのアプローチ」と題し、宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科の埴岡隆教授に御登壇いただきました。福岡歯科大学教授の頃から産業歯科保健部会九州地方部会長として御尽力下さり、いち早く喫煙対策に関するWHO情報等を歯科関係者に御指導下さっています。近畿地方会学術講演会で歯科の話は初めてとのこと、林朝茂近畿地方会長の高校の先輩で御懇意にされているという御縁も多職種連携に繋がり、光栄に存じます。

喫煙が歯周病をはじめとする口腔組織へ及ぼすリスク、受動喫煙が大人だけでなく子どもにも与える影響、WHOの動機づけ支援やFDIのガイダンス等世界での禁煙の取り組み、さらに生活習慣病と咀嚼・歯周病の関連等も含め、豊富な知見を資料と共にわかりやすく具体的にお話し下さいました。

質疑応答も活発に交わされました。産業歯科保健部会としてもご要望に応えられるよう、HPを充実して情報共有の場としての準備を整えているところです。近畿地方会の産業歯科保健部会も研修会開催はじめ活動を重ねて参りますし、引き続き御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



宝塚医療大学保健医療学部口腔保健学科 埴岡 隆 教授

産業衛生技術部会研修会報告

「産業衛生技術部会研修会報告」

住友電設株式会社 健康管理室

喜多岡 蓮美

6月10日に開催された技術部会研修会の3つの講演についてご報告します。最初に大塚文男教授（岡山大学総合内科学）が685人のlong COVIDを解析した結果について講演されました。岡山大学ではコロナアフターケア外来が開設されており、県内だけでなく13都府県から受診者があり、つらい症状であることが窺われました。半数弱が平均195日で通院終了している一方、残り半数強は平均457日経過しても通院中でした。多く見られる症状は順に倦怠感60%、頭痛22%、睡眠障害20%、嗅覚・味覚障害、呼吸困難感、脱毛などでした。ブレインフォグは27%にみられ、睡眠障害がある人に多いとのことでした。ブレインフォグの原因は視床下部の炎症が想定され、内分泌系に影響するようです。long COVID対応は症状の多様性を認識し、長期的視野を持って多職種連携が必要とのことでした。次に、亀尾聡美教授（甲子園大学栄養学部）が亜鉛欠乏とメンタルヘルス問題について講演されました。看護・介護職員を対象に夜勤時の疲労についてフリッカーを用いて調査したところ、勤務時間とともに疲労度は高まり、血漿亜鉛濃度が低いほど疲労度が高いとの結果を示されました。必須微量元素を意識した食習慣の重要性を学び、早速、亜鉛を意識して取り入れるようにしています。最後に岩木直先生（総合技術研究所）が情報機器端末を利用した簡便なフリッカー検査の開発について紹介されました。客観的な疲労指標が身近に使用できれば、運輸業のような疲労と危険が隣り合わせの業種で有用であると感じました。弊社は建設業ですが、長時間労働者が多く、このような疲労指標があると従業員の意識向上につながるのではないかと思います。今回の研修会はいずれもこれまであまり意識したことがない内容で、知識の幅を広げることができました。

第2回近畿産業歯科保健部会研修会報告

「2023年度第2回近畿産業歯科保健部会研修会」



石原歯科医院

石原 宗和

9月10日(日)午前10時より大阪ドーンセンターにて、標記研修会が「歯科からの挑戦～これからの産業保健～」をテーマに開催された。今回は大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座の阪井丘芳教授をお招きし「職場における口からの健康管理と感染予防～刺激が少なく身体に優しい除菌消臭剤MA-Tとは?～」と題してご講演いただいた。

数年前まで職場における口からの健康管理はう蝕、歯周病、口臭予防が主体であったが、新型コロナウイルス感染症に直面して世界は一変した。当初新型コロナウイルスは呼吸器である気道、肺から感染すると思われていたが、研究を進めていくと肺に直接感染するケースと唾液腺に感染するケースが考えられるようになった。つまり新型コロナウイルスは口腔、唾液から感染するのである。今では当たり前になったが、感染した唾液飛沫を浴びないように対策が求められるようになった。

その一方で誤嚥性肺炎を防ぐために口腔ケア活動を行ってきっていたが、そこでMA-T（要時生成型亜塩素酸イオン水溶液）を用いた口腔ケア用品を開発した。MA-Tは画期的な触媒技術により、通常はほぼ水に近い状態でありながらウイルスや菌がある時だけ姿を変えて攻撃し分解する。新型コロナウイルスも容易に不活化できる高い安全性を備えた優れた除菌消臭剤である。

これからの健康管理には職場でも家庭でも歯磨き、うがいを基本とする口腔ケアは非常に重要であり、そこにぜひMA-Tを活用できればと考える。最後に口腔ケアと社会ケアで地球を支えていかなければならない、とまとめられた。

日曜日の朝の開催にも関わらず、歯科医師、歯科衛生士だけでなく、医師、保健師・看護師、労働衛生コンサルタントなど多職種の方々にも多数ご参加いただいた。講師の日本学術会議での講演や大阪・関西万博の歯科担当としての話など、幅広い活動の話に参加者の歯科への関心がさらに高まっていた。産業保健の分野における口腔衛生の重要性が再認識された研修会であった。

会員の声

日光東照宮を訪れて

大阪青山大・健康科学

相羽 洋子

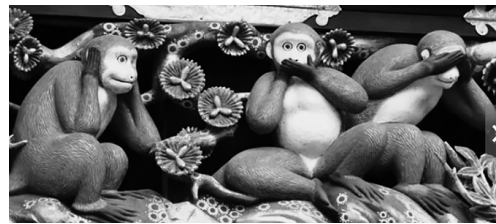
第96回日本産業衛生学会が5月に宇都宮で開催された際、良い機会と思い立ち日光東照宮へ行ってきました。宇都宮駅から日光駅までJRで約40分、そこからバスを乗り継いで日光東照宮へ。こちらを訪れたのは約20年ぶりでしょうか。相変わらず、海外からの観光客も含め多くの人で賑わっていました。日光東照宮は400年以上の歴史をもち1999年には世界遺産に登録されました。数々の国宝や重要文化財が集結した貴重な建造物や芸術品の宝庫で、その豪華絢爛な美しさは圧巻です。建物の総工費は今の価値で約400億円、建設には延べ454万人が携わったと言われています。

日光東照宮の見どころは、陽明門をはじめ色鮮やかな美術工芸など数多くありますが、何といても有名なのは「見ざる、言わざる、聞かざる」の「三猿」です。三匹の猿が目と口と耳をふさいでいる姿が建物に彫られ

ても可愛らしいものです。普段、見なくて良いものを見てしまい、言わなくても良いことを言ってしまう、聞かなくても良いことを聞いてしまう筆者にとって、久しぶりに見た三猿の姿は戒めにもなりました。

今回気になったことは、車椅子の方や高齢者の方にはハードルが高いところが多いなということです。建造物は殆どが国宝で、手を加えることが難しいので無理なことは承知していますが、せめて階段の横にスロープを付けるなど、高齢化に向けて対策が進めば良いなと感じました。

次に日光東照宮を訪れるのはいつになるのか？また20年後くらいになってしまうのかわかりませんが、日光東照宮へ行く機会が訪れるのを楽しみにしたいと思います。



産業医として・臨床医として

産業保健ハンドリング (株)

岩本 督徳

以前から産業保健への関心を持ちつつ臨床医として勤務しておりましたが、ご縁をいただいて2021年4月より産業医としてのお仕事を始めています。現在は鉄鋼業の企業を中心に10社の嘱託産業医として訪問しつつ、内科の医師としても細々と外来を担当する日々を送っています。

臨床医として勤めながら産業保健に携わるようになり、改めて認識したのは早期受診や予防医療の大切さです。外来では時折、つい先日まで元気に職場で働いていたのに突然の病気で倒れて入院せざるを得なくなり、外来でよくよく話を聞いてみると「健康診断で何年も前から異常の指摘を受けていた気がするが、面倒で受診していなかった」「そもそも健康診断の結果は読んでいない」という方にお会いすることがあります。臨床現場だけで働いていた頃にはあまり意識していませんでしたが、産業保健職をメインに働くようになってからは、そのような方に対してどのようにアプローチしていれば医療機関

への早期受診や生活習慣の改善に繋がれたのだろうか、という思いを強く感じるようになりました。嘱託産業医の限られた訪問時間の中ではなかなか多くの従業員と接する機会はありませんが、職場巡視や産業医講話、健診結果判定などの機会を逃さず、状況が少しでも悪化する前にアプローチできるよう、ひとりひとりへの声掛けを続けていきたいと考えています。

また、産業医として産業保健の現場を訪ねるようになって気づいたのは、従業員のメンタルヘルスケアに悩んでおられる企業がとても多いことです。それぞれの企業は規模も業種も違えど、適応障害や抑うつ状態といったメンタル不調で休業したり、復職してからも就業制限のある中で業務を続けたり、といった従業員とどのように向き合うか、という課題を持っているところがほとんどでした。一言にメンタル不調といっても人それぞれに症状は異なり、不調を訴える従業員本人、人事担当者や現場の方と一緒に手探りの状態で解決策を模索している毎日です。

これからも、産業医としての視点、臨床医としての視点を意識しつつ、指導して下さる先生方や一緒に働いて下さる看護職のみなさん、訪問先でお会いできた方々とのご縁を大切に、日々のお仕事に励んでいきたいと思っています。



仕事と子育ての両立

UBE (株) 堺工場・健康管理室

野村 杏子

産業保健師として働いて9年目になりました。2021年に第一子を出産、その後育休を取得し1年半ほど仕事を離れ2022年4月に復帰しました。現在は育児短時間勤務制度やテレワーク等を活用しながら仕事と子育ての両立に日々奮闘しています。私の生活は5時半に起床し、朝食の準備と身支度をして、7時半に保育園に子供を預けそのまま仕事に行きます。16時に退社し17時半に保育園にお迎えに行き、夕食の準備、お風呂、寝かしつけをして22時頃からやっと自分の時間になります。時間に追われながらの生活で、スケジュールを立てても思い通りに進まないことも多く、体力的にもメンタル的にも余裕がなくなり、つらいと感じることもあります。幸い夫が家事と育児に協力的なので、早く帰ってきた日にはお風呂に入れてもらったり、翌日の食事の下準備を手

伝ってもらったり、家事と育児を2人でシェアしながら、はじめての子育てを頑張っています。

仕事については、時間の制約がある中でこれまでと同じクオリティの仕事しようと思うと、時間が足りず悩むことが多くありました。子供はまだ2歳で体調を崩しやすく、急に仕事を休まなければならないこともありました。仕事がスケジュール通り進められず、どんどんと溜まっていき、このままではダメだ思うようになり「これまで通りの仕事のやり方では無理がある、もっと優先順位をつけ効率的に仕事をしよう！困ったときは周りを頼ろう！」と気持ちを切り替えるようにしました。やるべきことが明確になり効率的に時間が使えるようになったことで、仕事と子育てのバランスがうまく取れるようになってきました。職場の手厚いサポートにはいつも感謝しています。

近年、健康経営が注目され産業保健分野のニーズはますます高まっています。働く人々がワークライフバランスを取り、健康で働きやすい職場づくりのお手伝いができるよう、これからも努力していきたいと思います。



まだまだこれから

医療法人 米永会 米永歯科医院

米永 哲朗

私は、今大阪市内で、歯科医院を開業しております。平成元年開業ですのもう既に35年が経とうとしております。

35年間同一場所で診療していると、患者さんの口腔内の状況が、開業当時と比較しますと、ずいぶん変化してきましたように思います。俗に言う「虫歯の洪水時代」後期の開業でしたので、学童の子供さんは、虫歯が非常に多くまた高校生、大学生、社会人に至るまで、いわゆる虫歯を削って処置するという治療が中心でした。なかなか予防という所まで手が回らず、ひたすら治療してきたように思われます。また成人から高齢者に至っては、歯周病のオンパレードでとにかく年を重ねるに至って歯が喪失していた時代です。

その頃、日本歯科医師会は「8020」運動を提唱し、兎に角80歳で20本以上の歯を保とうという運動が展開し始めました。

当時の達成率、すなわち80歳で20本の歯を維持できていたのは、数パーセント(10パーセント以下)であったように記憶しております。令和の時代になりますと達

成率は50パーセントを超えるようになってきました。これは、保健、医療、教育、保育分野をはじめとする関係職種を取り組みの成果だと思えます。私自身の診療内容もようやく予防ということに本格的に取り組めるようになってきました。一人でも多くの患者さんに「8020」を達成できるよう日々奮闘しております。

それに付随して歯科検診の依頼も増加してきました。いわゆる一般歯科検診、歯周病検診が中心ですが、近年企業からの歯科特殊検診(有害業務検診)も増加傾向にあります。塩酸、硫酸、硝酸、亜硫酸、フッ化水素、黄リン、その他歯や支持組織に障害を起こす化学物質について、歯科特殊検診の実施が義務付けられていますが、2022年10月から、労働安全衛生規則の一部を改正する省令が施行され、労働者数に関係なく、所轄労働基準監督署長に報告するよう義務化されました。このことが大きく影響しているように思われます。今まで以上に労働者の健康の確保に、一層貢献するという、重い責任が課せられたと理解しております。

私自身、還暦を超え一般的にはそろそろ、引退という2文字がちらつく頃ですが、まだまだいろいろなことにチャレンジし、好奇心を前面に出して若い世代に負けないう、体力の続く限り頑張っていくつもりです。皆様方の御指導宜しく願いいたします。



私たちの職場 (47)

大阪ガス(株)

大阪ガス(株)人事部 Daigas グループ
健康開発センター
産業医 濱田 千雅

【会社概要】大阪ガスの設立は1897年です。本社は大阪市中央区(淀屋橋)にあり、天然ガスの輸入、都市ガスや電気の製造・販売などを行っています。天然ガスは、ほぼ大気圧下でマイナス162℃まで冷却すると液体になり、体積が気体のときの600分の1になりLNG(液化天然ガス)としてタンカーで輸送されます。天然ガスは、石炭や石油に比べ燃焼時に二酸化炭素発生量が少ないため、地球温暖化抑制に寄与します。

大阪ガスグループは2018年にDaigasグループとなり、メタネーション(水素とCO₂から都市ガス原料の主成分であるメタンを合成すること)などのイノベーションによる都市ガス原料の脱炭素化、再生可能エネルギーの導入を軸とした電源の脱炭素化により、「2050年カーボンニュートラル実現」を目指し、国内エネルギー事業、海外エネルギー事業、ライフ&ビジネスソリューション事業を主な事業としています。大阪市内にある研究所を「Carbon Neutral Research Hub (CNRH)」と位置づけ、カーボンニュートラル実現に向けた様々な研究・技術開発を加速させています。その他、グループ会社も多く、不動産業・警備業・ビルメンテ・情報処理ソフトウェア・コールセンターなど多岐にわたり、グルメ雑誌のあまから手帳もグループ会社の1つです。従業員数は単体で1163名、連結21017名(2023年3月末)となっています。

【産業保健体制】私たちは京セラドーム大阪のそばにある事業所内のDaigas健康開発センターにてグループ会社を含めた従業員の健康管理を行っています。産業医・薬剤師・保健師・看護師・レントゲン技師・歯科衛生士・スタッフなどの常勤社員と非常勤の医師・歯科医師・看護職などと共に毎日社内では約80名の健康診断を行っています。産業保健スタッフの年齢も20代から60代と幅広く活躍しています。

【安全健康に関する考え方】1976年に会社の2大長期方針の1つに『健康づくりのための施策』を掲げました。社長の講和の抜粋ですが、『心身ともに活気にみちあふれた』積極的な健康こそが幸福にとって絶対欠くことができない条件であり、『・健康づくり、人間づくりの体制が社員全員の幸福につながり、明るい活気にみちた職場づくりに役立ち、すばらしい技術開発を生み出す・』という認識で弊社では以前から健康を重要な位置づけとしています。

【産業保健活動・ホワイト500から2023健康経営銘柄へ】Daigasグループ健康経営宣言に基づき、従業員の健全



Daigasグループ 健康開発センターのメンバー
筆者は最前列の向かって左から4番目

な生活習慣を担保するための行動指針ヘルシー7(体重・食事・運動・飲酒・喫煙・睡眠・ストレス)を策定・周知しました。2021年はちょうど東京オリンピックも開催されていたので、Daigasグループでもヘルシー7オリンピックを開催しました。体重・食事・運動・飲酒・睡眠・ストレスの6種目を約2か月間、禁煙部門は約3か月間を実施期間としました。9月に人事部長にも出席してもらい、開会式を(ちょうどコロナ禍でもあり)ZOOM配信し、元陸上のオリンピック選手であった朝原宣治さんにも応援メッセージを発信してもらい、とても楽しい幕開けとなりました。さらに、春と秋にはアプリを活用した歩活イベントを実施し、チーム対抗戦をしています。2023年度は若年者の朝食欠食率の改善を目的に前年の施策に加え、大阪ガスクッキングスクールと共同で昼休みを活用し、「短時間で作れる栄養バランスの良い朝食」を先生と一緒に調理し、試食を楽しむイベントも数回開催しました。喫煙対策については、2012年に多くのグループ会社も参加する衛生講演会で産業医科大学の大和先生にご講演をいただき、受動喫煙による健康障害の重要性をしっかりとお話しいただき、2015年度から建物内禁煙に、2022年度からようやく就業時間内禁煙となりました。毎年産業医が実施している新任管理者研修に加え、既存管理者研修についても健康をテーマにした時間を人事から頂き、女性の健康管理や障がい者雇用の理解(発達障害の知識を深めよう)について話をしました。こうした健康開発センターのメンバーの力の結集が2023健康経営銘柄取得に結び付いたと思われます。今後、定年も延長され、ロコモ・メタボ疾患、メンタルヘルス不調、認知症など益々、健康管理が重要になっていきます。

【最後に】カーボンニュートラル実現は地球規模の問題であり、それらを支える会社でありたいと思います。そのためにも健康管理は最重要課題であり、従業員は定年後弊社の顧客となる、その時に、自分の働いた会社の商品を買いたいと思える愛される会社であるよう、これからも産業保健スタッフ一同、力を合わせて従業員の健康管理に尽力していきたいと思っています。

令和5年度日本産業衛生学会近畿地方会産業精神衛生研究会のご案内

テーマは令和4年度のアンケートをもとに「精神疾患の復職支援について」となります。

精神疾患の復職支援の対応に苦慮する職場関係者の何をもって復職可とするか、復職させたとしたら、どのような条件で復職させるか、皆さん知りたいところだと思います。この分野に詳しい下記のメンバーで行います。自由討議の時間で、様々な視点から意見交換し、ヒントを掴んで頂ければ幸いです。

(日医認定産業医研修会指定申請中)

(産業保健看護専門家制度研修単位認定予定)

【日時】2023年11月15日(水) 18:30～20:30

【場所】国民會館 武藤記念ホール 大ホール
大阪市中央区大手前 2-1-2
(地下鉄天満橋駅、京阪電車天満橋駅)

【プログラム】

- 1) 「専属/嘱託の対応の違い～両者の経験から～」
忽那 一平 先生 (IK健康コンサルタント事務所・産業医)
- 2) 「産業看護職による復職支援への関わり～本人・上司・人事・産業医にどう橋を架けるか～」
南 未来 (株式会社ドクタートラスト 保健師・公認心理師)
- 3) 「事例から知る精神科産業医の職場復帰前後の対応」
夏目 誠 (読売テレビ・毎日放送 精神科医・産業医)
座長 木村 隆 (一般財団法人近畿健康管理センター)

【参加費】学会員 1,000円

【参加申込・お問い合わせ】

<https://forms.gle/8fcg7maNmMPCLpDW9>

(定員になり次第、締切ります)

日本産業衛生学会近畿地方会産業精神衛生研究会事務担当
蜂尾 哲生 (TEL 077-525-3233) 近畿健康管理センター内



【2023年度 日本産業衛生学会近畿地方会 新幹事体制】

近畿地方会会員数 1483名
(2023年9月時点)

地方会長	林朝茂
副会長	森口次郎
監事	森岡郁晴 鮫島真理子
事務局支局	中西印刷
本部理事	井上幸紀 鈴木純子 西田和彦 林朝茂 森口次郎

●本部4部会幹事

本部産業医部会	岩根幹能 森口次郎 深井恭佑
本部産業保健看護部会	鈴木純子 平田真以子 藤吉奈央子 村田理絵
本部産業衛生技術部会	長見まき子 竹内靖人 東賢一
本部産業歯科保健部会	安田恵理子 大橋正和 米永哲朗 石原宗和

●近畿地方会幹事

	担当理事	担当幹事
総務	西田和彦 森口次郎	佐藤恭子 森山和郎 深井恭佑 堤梨恵 中西一郎
財務	西田和彦	佐藤恭子 中西一郎 櫻木園子
学術	西田和彦 森口次郎 鈴木純子	伊藤正人 河津雄一郎 上原新一郎 深井恭佑 岩根幹能 藤吉奈央子 米永哲朗 東賢一
広報	井上幸紀	清原達也 村田理絵 谷池正行 相羽洋子 石原宗和
若手活性化	森口次郎	濱田千雅 藤吉奈央子 岩根幹能 竹内靖人

●近畿地方会部会関係

	部会長	副部会長	事務局
産業医部会	岩根幹能	濱田千雅	
看護部会長	鈴木純子	藤吉奈央子 平田真以子 村田理絵	森雅子
技術部会長	長見まき子		津田大希
歯科部会長	米永哲朗	安田恵理子	石原宗和

●研究会世話人

産業精神衛生研究会	木村隆
-----------	-----

●選挙管理委員 2022年5月～2024年5月に3名入れ替え予定

委員長	事務局長	委員
出雲谷恭子	一尾直子	久保とし子 益江淑子 堤梨恵 竹内靖人

●中央選挙管理委員

委員	津田恵理
----	------

産業医部会からのお知らせ

第28回近畿産業医部会研修会

日時：11月18日(土) 14:00～16:40

場所：エル・おおさか 南館5階 南ホール

テーマ「オンラインを活用した産業保健活動」

<基調講演(60分)>

「オンラインを活用した産業保健活動～活用場面と注意点～」(認定産業医1単位)

座長 岩根 幹能 (日本製鉄株式会社関西製鉄所、近畿産業医部会長)

講師 梶木 繁之 (株式会社産業保健コンサルティングアルク、遠隔産業衛生研究会代表世話人)

<シンポジウム(90分)>

「オンラインを活用した産業保健活動の実際と今後について」(認定産業医1.5単位)

座長 深井 恭佑 (株式会社リードウェル)

シンポジスト1(30分) 専属産業医の立場から

森 貴大 (住友電工株式会社本社産業医)

シンポジスト2(30分) 労働衛生機関所属の立場から

黒木 仁美 (一般財団法人京都工場保健会)

総合討論(30分)

が公開。

産業保健看護部会編集によるテキストが公開されました。最新の知見を盛り込み、産業保健看護の定義・役割といった基本事項から現場での具体的な活動方法までを簡潔に解説されています。執筆陣は、産業保健分野で、第一線でご活躍中の方々です。

(職場巡視、作業環境測定、保健指導に役立つダウンロード可能な演習用教材付録付)

本年度より、上記、基礎研修受講者にはこのテキストが配布されます。

今年もやります！若手活性化プロジェクト

「第2回わかりやすい疫学統計講座」ご案内

1. 日時：2024年1月20日(土) 15:00～17:00

2. 開催方法：Zoom 配信(予定)

3. 内容(予定)：

「発表しよう。まずは研究のレシピ(手順)を知ろう！～アンケート作成とデータ収集のポイントも含めて～(仮題)」

「学会に参加して自分でも発表してみたいと思うけど、統計がよくわからないし、教えてくれる人もいない」と、あきらめていませんか？

昨年度は、現近畿地方会長の林 朝茂 教授(大阪公立大学産業医学教室)にご登壇いただき、これまでとはひと味違う実践的な研修会を実施しました。「必要なt検定や χ^2 検定とちやうで、ロジスティック回帰分析を使こうと多変量解析をすんねん。それって、そんな難しいこととちやうねん」という内容でした。当日の参加者は100名を超え、「目からウロコ」と大好評で、継続希望の声をたくさん頂戴しました。

2026年には日本産業衛生学会が大阪で開催されます。そこで発表してみませんか！?

3回シリーズ(予定)で、これから3年間をかけて研修会を継続実施し、みなさんの研究発表を支援します。2023年度は、研究のレシピ(手順)とデータの集め方について学びます。ポイントは「表」を研究の最初からイメージすることだそうです。ぜひご参加ください。

詳細が決まりましたら近畿地方会のウェブサイトやメールでご案内します。なお、この企画の対象者は近畿地方会員に限らせていただきます。

産業保健看護部会からのお知らせ

○近畿産業看護部会定例研修会のご案内

日程：2024年1月27日(土)

第1部 講演会：「認知行動療法とセルフケア(仮題)」

講師：大野 裕 先生(精神科医、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター顧問)

第2部 懇談会予定

詳細は決まり次第、地方会ホームページに掲載します。(部会員にはメルマガでもお知らせ予定)

○本部教育関係情報(1.2の申し込み終了)

1. 基礎研修 AB コース開催(e-ラーニング) 9月15日～12月5日

2. 産業保健看護専門家認定試験 12月3日(日)会場：東京有明医療大学

3. テキスト『産業保健看護学-基礎から応用・実践まで』

編集後記

2023年10月27日(金)～29日(日)、第33回日本産業衛生学会全国協議会が現地(山梨県)+オンデマンド配信で開催されます。テーマは「多様化する社会と産業保健」です。個人的には「産業医と医師の働き方」「プレゼンティーイズムへのアプローチ」「生成AIの産業保健領域への応用可能性」などのテ

マに興味があります。執筆時には未来日ですが、現地開催も無事に盛会となる事を祈っております。

(谷池 正行)

編集委員(50音順)

相羽 洋子 石原 宗和 井上 幸紀(担当理事)
清原 達也 谷池 正行 村田 理絵(当番編集長)